

2008年11月5日

各位

会社名：株式会社システム ディ
代表者：代表取締役会長兼社長 堂山 道生
(コード番号：3804)
問合せ先：専務取締役管理本部長 井ノ本 登司
電話：075-256-7777 (代)

業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年8月4日に公表した平成20年9月期(平成19年10月1日～平成20年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、下記のとおり特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 平成20年9月期通期業績予想数値の修正(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,917	132	124	74	22円82銭
今回修正予想(B)	1,657	143	219	34	10円77銭
増減額(B-A)	△259	11	94	△39	—
増減率(%)	△13.6	8.7	76.1	△53.3	—
(ご参考) 前期(平成19年9月期)実績	2,007	310	301	179	55円24銭

2. 業績予想修正の理由

弊社では、学園ソリューション事業の主力製品である『キャンパスプラン.NET Framework』“バージョン3.0”を6月にリリースしましたが、当初の予定からリリースが遅れたこともあり、次期以降の受注や商談として結びついたものの、下期においては計画を下回る売上にとどまる見込みであります。

その一方で、直接販売先の新規開拓、利益率の高い中小型案件の増加、社内開発体制の強化によるカスタマイズコスト削減、および全社的な費用低減といった、昨秋から実施している利益率向上のための各種施策の効果もあって、営業利益および経常利益は計画を上回る見込みであります。なお、当期純利益につきましては、ソフトウェア仮勘定評価損の計上、および繰延税金資産の見直しによる法人税等調整額の計上等により計画を下回る見込みであります。

(注) 上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3. 特別損失の発生およびその内容

弊社では、ユーザーズに応えたパッケージソフトを提供するため、積極的な先行投資を行ってきましたが、現在開発中のソフトウェアの収益性を精査したところ、一部のソフトウェアに評価損が認められました。これに伴い、ソフトウェア仮勘定に計上していた95百万円を特別損失として計上する予定であります。

以上